

## 仙人通信 95 籠の登山(2227m)・水の塔山(2202m)

籠ノ登山は浅間山の西に位置し、烏帽子火山のカルデラ内に湯ノ丸・棧敷山・村上山と共に出来た火山丘で、烏帽子(仙通 86 号)と黒斑(仙通 43 号)の中間に鎮座する山だ。

南方にある三方ヶ峰火山との間にある池ノ平の駐車場から籠ノ登・西籠ノ登そして反対側に位置する水ノ塔をT字型に往復するコースとした。駐車場の周囲にはキスゲ・フウロ・ヤナギランが咲き、改めて標高 2000mであることを実感する。道路を横断して唐松の林に入ると、クルマバナ・ダケフキ・トリアシショマ・トモエシオガマ・クルマユリ・ホ躑躅が登山道を飾る。更にオトキリソウやイチヤクソウ等が加わり、見惚れている間に森林を抜け、火山岩の見晴らしの利く登りとなる。眼下には三方ヶ峰や高峰そして小諸の町までがクッキリと望める。ガンコウラン・クロマメノキ・コケモモの実が木漏れ日に光っている。オミナエシの仲間で黄色のコキンレイソウが尾根沿いの登山道を飾る。45 分程で一等三角点の籠ノ登山の山頂である。八ヶ岳や北側の棧敷山方面は雲の中であるが浅間山・南面の山から烏帽子までは綺麗に望める。コースを西に取り、西籠ノ登の鞍部に向うと紅のミゾレが白い小さな花弁を上向きにして開き始めている。鞍部ではマツムシソウ・ウスユキソウ・ヤマハハコ・オトキリソウ・そしてアキノキリンソウと初秋の花模様だ。

取分け小さい清楚な黄色いニガナが心を引く。イワインチンの蕾は固いが黄色に染り始めている。30 分足らずで山頂に立つ。振り返ると、籠ノ登山山頂では夏休みの集団登山で来た高校生だろうか 30 名近い人影が、大声で雄叫びを上げ、今までの静けさを破る。再び籠ノ登の山頂に戻ると、既に静けさは戻り、赤とんぼのみが乱舞していた。米粒大の先端をピンクに染めたホツツジやマツムシソウが、小生の到着を待って居て呉れてたようで、嬉しさの余りシャッターを切った。水ノ塔に向う登山道は、鞍部に向うとコメツガ・シラビソ等の林となる。紅い実のタケシマランや茶色い実のマイズルソウを見付け、覗き込むと、薄紫のミヤマクワガタ・ヒゴタイやカニコウモリまでも発見出来た。南面がガレ場化した所ではイブキジャコウ・ウスユキソウ・ヤマハハコ・ヤマナデシコ・ポウフウ等のオンパレードである。穂先が蒼紫に色付いたリンドウを発見。登山者の誰よりも早く、このリンドウを見つけた気になり、両手で蕾を包んでしまった。山頂近くでは北側を捲くが、ツマトリソウが遅い花を付けて待ってくれたようだ。1 m程の至近で鶯が鳴いてくれるのも嬉しい。眼下には池ノ平から車坂に連なる林道が、又過去に登った山の情景を思い起こしながら休憩を取り、籠ノ登から駐車場へと戻る 5 時間(15000 歩)の山旅を楽しみました。ソバナ・ワレモコウ・フウロ・ヤナギラン・アザミ等の咲く、池ノ平を散策して、心までもが花に埋もれた山旅の締めくくりをした 1 日であった。( h 2 2 ・ 8 ・ 4 )

1 等三角点の山頂      コリンレイソウとアキノキリンソウ      マツムシソウ

